

# 安心・安全の科学研究教育センターニュース

Center for Risk Management and Safety Sciences

## 【目次】

- ❖ 平成21年度のセンター事業について
- ❖ センターの中間評価（自己点検評価）とセンターの存続について
- ❖ 人材育成ユニットの終了と継続について
- ❖ 安心安全マネジメント副専攻プログラムについて
- ❖ センターの活動紹介／教職員一覧／学内外の動き／新しい教職員／編集後記

第12号



## 平成21年度の安心・安全の科学研究教育センター事業について

### 1. はじめに

本センターは、平成16年6月に設置以来、「安心・安全の科学」に関わる研究・教育の成果を社会に発信するとともに、文理融合型の研究・教育プロジェクトを全学のご協力、ご支援の下、企画、推進してきました。ここでは、今年度の具体的な事業計画についてご紹介したいと思います。

### 2. 学生教育「大学院生を対象とした教育プロジェクトの推進」

全学からのご協力をいただきながら文部科学省科学技術振興調整費新興分野人材養成プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」を推進し、平成21年3月に修了生（修士30名、博士3名）を送り出しました。昨年度末で文部科学省からの助成が終わりましたが、引き続き本ユニット及びその継続プログラム「安心安全マネジメント」を推進してまいります。

### 3. 社会人教育「社会ニーズのある公開セミナーの実施」

学生だけでなく社会人の方も対象に、最新の「安心・安全の科学」に関する公開セミナーを2-3回企画・実施することを考えています。

### 4. 研究開発「新たな研究プロジェクトの企画・推進」

平成21年度も文部科学省、(独)科学技術振興機構、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構等の競争的公募研究や新日本製鐵(株)との共同研究等の大型研究プロジェクトを推進すると共に当センターを中心に、学内の複数部局ならびに包括連携先である株式会社IHI、高圧ガス保安協会等の関連機関と連携して、新たな大型研究プロジェクトに取り組みたいと考えております。

### 5. 今後の展開「関連機関との連携やセンターの拡充」

今後は上記の研究・教育プロジェクトを発展させ、関連省庁、地方自治体、その他関連機関との連携を強めながら様々なプロジェクトを企画・推進していきます。このため、各研究院・研究科等で「安心・安全」に取り組む先生方に併任教員としてご参画いただいて、センターの活動を益々充実したいと思っています。今年度も、本センターの活動について、ご支援、ご協力をいただきますとともに、ご意見、ご要望などをお寄せいただければ幸いです。

## センターの中間評価(自己点検評価)とセンターの存続について

安心・安全センターは、平成16年の設立当初は期限のないセンターとして発足しましたが、他の学内に設置されたセンターと同様に「時限を定めるセンター」と位置づけを改められ、5年毎に実績が評価され、その評価結果に応じて拡充・廃止の評価を受けることとなりました。既に昨年度で設置後5年目となっている当センターについては、他のセンターに先駆けて、昨

年11月に当センター運営委員会で中間評価(自己点検評価)を実施し、その報告書と将来計画を本学の執行部に提出して、存続するかどうかの評価を受けました。

運営委員会でとりまとめた評価結果の概要は、次の①～③となります。なお、将来計画では、これまでの取り組みを益々拡充・発展させることとしています。

- ①センターは、専任教職員 2 名という少ない人員にもかかわらず、他部局の協力や併任教員の参画を得て、多数の大型研究・教育プロジェクトを獲得・推進してきている。
- ②センターの設置とその後の活動は、本学の「安心・安全」に係る実績と「実践性」を重視する姿勢を学内外に鮮明にしたという点で大きな意義があり、その貢献は大きいと判断できる。
- ③大学全体のための事業への予算措置や間接経費の配分見直し等の財政支援、専任教職員等の拡充を行うことで、益々の研究・教育プロジェクトの企画・推進と、全学安全衛生の確保と管理体制の強化、将来における全国共同利用・共同研究拠点化等の大きな発展が期待できる。

これらの評価結果の報告をもって当センターの存続の検討がなされ、これまでの実績と今後の活動への期待が大きいことから、さらに 5 年間（平成 21 年度から平成 25 年度まで）の当センターの存続を決

定していただくことができました。今後も、各部局の先生方にご協力を頂きながら、安心・安全で持続可能な社会の構築に貢献していければと考えています。

#### 文部科学省 科学技術振興調整費 新興分野人材養成プログラム

### 「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」の終了と継続に向けて

ユニット実行委員会委員長 岡 泰資

#### 1. 高度リスクマネジメント技術者育成ユニットの実施概要

文部科学省科学技術振興調整費による教育プログラム（新興分野人材養成）である、「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」（以下、「ユニット」と略す）を平成 16 年度から平成 20 年度までの 5 ヶ年にわたり運営し、平成 21 年 3 月 31 日を以って契約期間内業務が全て終了しました。本ユニットは、安心・安全の科学研究教育センターを運営母体とし、本学所属の教員及び特任教員から成るユニット実行委員会（教育ユニットの管理と推進、教育方法・カリキュラムの検討、単位・修了要件の確認等を行う）を中心として運営してきました。5 年間の事業期間において、当初の目標であった「修士課程相当 130 名、博士後期課程相当 5 名」を上回る修了生を社会へと輩出しました。リスクマネジメントの素養を有した、社会的に有為な人材を多数輩出することができたと考えております。

また、輩出数のみではなく、その教育カリキュラムにおいても挑戦的な試みをしてまいりました。現在の社会において、リスク事象とは工学技術的、自然科学的な要因と、人間や社会の要因とが重層的に絡んで生じるものとなっており、従来型の縦割りの専門分野のみでは、包括的にリスクを捉えることが難しくなっています。本ユニットでは文理融合したカリキュラムを組み、人文社会系から工学・自然科学系までのリスクの捉え方を広く学ぶことができるよう努めてきました。このような本ユニットの教育内容は高い評価を受けており、3 年終了時の文部科学省における中間評価では最高評価である A 評価を受けています。その後、後半 2 年間は前半のカリキュラムをさらにブラッシュアップし、充実度を高めてまいりました。

具体的には、必修のユニット特設科目である先進的

なリスク分析技術に関連した「リスクの分析とコミュニケーション」、リスクコミュニケーション手法に関連したワークショップである「リスクコミュニケーション・ワークショップ IA, IB, II」を開講しました。また本ユニットのために新たに開講した学際的なユニット推奨科目として、技術者倫理、ヒューマンファクター、先進的なリスク評価手法、リスク管理の社会技術的側面、産業や社会に関するリスク、地理的情報の活用、リスクに関する心理的特性、などに関する科目群を開講いたしました。さらに、各研究科・学府で開講している安心・安全関連の科目群を関連科目として位置づけ、専門分野以外の科目の履修を促進しました。また、ワークショップの一環として、リスクアセスメントの世界的権威 Erik Hollnagel 教授による集中講義（H17～H19）や毎年 4 回程度の学外の専門家を招いた公開セミナーを実施し、通常の授業科目ではカバーしきれない多様なリスク関連のテーマについても補完してきました。

#### 2. 副専攻プログラムへの継承

科学技術振興調整費のプロジェクトとしてのユニットは終了いたしました。ユニットを通じて培ったリスク教育のノウハウを学内に定着させ、さらなる発展を目指すことが次の挑戦となります。

平成 21 年度からは、ユニットは全学の大学院生が履修可能な副専攻プログラム「安心・安全リスクマネジメント」と姿を替え、継続してリスク関連の教育を行っていきます。これまでのカリキュラムのエッセンスを凝縮し、さらなる充実を図ってまいりますので、今後ともご支援、ご協力いただけますようお願いいたします。



## 副専攻プログラム「安心安全マネジメント」について

安心・安全の科学研究教育センターでは本学の大学院生を対象にした教育として、文部科学省科学技術振興調整費新興分野人材養成プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」を実施してまいりました。その教育システムを引き継ぐものとして、自然科学と人文・社会科学の融合知識をベースとし、具体

的な実務上の課題に、リスクマネジメントの手法を的確かつ総合的に適用できる人材の育成を目的とした、副専攻プログラム「安心安全マネジメント」を平成21年度から行うことになりました。本副専攻プログラムに登録する学生は講義科目および演習科目を履修し、修了時には修了証が授与されます。

### センターの活動紹介

#### 高度リスクマネジメント技術者育成ユニットの修了式を実施

平成21年3月26日、環境情報1号棟515室において平成20年度高度リスクマネジメント技術者育成ユニットの修了式を行いました。修了要件を満たした修士30名、博士3名に「修了証」が授与されました。修了生には、今後の活躍が期待されます。



加いただき、当センターの公開セミナーや教育活動に期待の声が多数聞かれました。

#### 安心・安全の科学研究教育センター 公開セミナー 『「守られるルール」に向けて：ルールの機能と逸脱行為』（1月28日、工学部講義棟A201）

平成21年1月28日（水）に工学部講義棟A201において、文部科学省科学技術振興調整費による新興分野人材養成プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」の一環として、公開セミナー『「守られるルール」に向けて：ルールの機能と逸脱行為』を実施しました。東京工業大学大学院理工学研究科・藤井聡教授から「法制度の心理的効果と安心問題」について、金城学院大学人間科学部・北折充隆准教授から「習慣性が及ぼす影響—毎日の小さな違反がもたらすもの—」について説明がありました。学内外から68名の方にご参加いただき、総合討論では参加者も含めて活発な意見交換が行われました。

#### 公開セミナー等の実施報告

#### 安心・安全の科学研究教育センター 公開セミナー 「柏崎原発の安全と安心」（12月2日、工学部講義棟C301）

平成20年12月2日（火）に工学部講義棟C301において、文部科学省科学技術振興調整費による新興分野人材養成プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」の一環として、公開セミナー「柏崎原発の安全と安心」を実施しました。東京電力(株)原子力設備管理部新潟県中越沖対策センター・所長・山下和彦氏から「新潟県中越沖地震の概要と設備健全性への影響について」、経済産業省原子力安全保安院原子力発電検査課・統括安全審査官・前川之則氏から「設備健全性の評価について」、環境科学会・理事・村田佳壽子氏から「市民の立場から、安心して運転再開を認めるためにクリアすべきこと」についてご講演いただきました。平成19年東京電力の柏崎刈羽原子力発電所を直撃した新潟県中越沖地震とその後の取り組みについて、当事者の東京電力、規制側の経産省、一般市民側の立場として環境科学会からの各講師にそれぞれの立場からご説明いただき、総合討論として参加者も含めて活発な意見交換が行われました。学内外から87名の方にご参

#### 「第5回 横浜国立大学 GIS・文理融合公開研究会 英知結集！流域圏から地球の未来を拓くために—空間情報プラットフォームに映し出される神奈川拡大流域圏の過去・現在・未来—」（3月25日、中央図書館メディアホール）

平成21年3月25日、中央図書館メディアホールにて「第5回 横浜国立大学 GIS・文理融合公開研究会—神奈川拡大流域圏空間情報プラットフォームの活用と今後の展開—」（主催：横浜国立大学、担当：教育研究高度化経費「分野横断・文理融合型地域研究教育を実現する全学的な知的情報基盤の構築と体制づくり」プロジェクト、GCOEプログラム「アジア視点の国際生態リスクマネジメント」、安心・安全センター、神奈川県拡大流域圏空間情報プラットフォーム研究会）が開催されました。GISを基盤として、実際に空間情報プラットフォームを活用した成果などについて、講演や全体討議があり、学内外から55名が参加しました。

#### 大学等環境安全協議会主催の労働安全衛生研修会を実施（3月4日、自然科学系総合研究棟I 404室）

大学、高専、大学共同研究機関などの廃棄物処理、環境保全、安全衛生に関する技術、研究交流を目的とした大学等環境安全協議会の依頼により、3月4日（水）、自然科学系総合研究棟I・404室で、安全

衛生の研修会を行いました。本学からは、安心・安全の科学研究教育センター・村上史朗特任教員（准教授）が「ヒューマンエラーの予防と修正－規則遵守の観点から－」、同センター・鈴木雄二技術専門職員が「大学での安全衛生マネジメントシステム構築の取り組み」について講演しました。他大学からは「報告書作成ソフト提供と自前作業環境測定のスメ」（東北大学・環境安全センター・中村修助手）、「費用対効果を考えた学生特殊健診方法の開発と実施経験」（愛知教育大学・保健環境センター・榊原洋子助手）のご講演がありました。また、安全工学、リスク管理学などを専門としている環境情報研究院・三宅淳巳教授のご協力により、実験室の安全管理に関する見学会を行いました。学外機関から21名の方にご参加いただき、研究教育機関の安全衛生管理について貴重な意見交換の場となりました。

## 安心・安全関連の学内外の動き

### 安全・健康・快適フェア 2009(ブース出展)

6月16日～18日に「安全・健康・快適フェア－安全衛生総合展 2009－」（全国安全会議，中央労働災害防止協会主催，入場無料）がパシフィコ横浜で開催されました。このフェアは安全・健康・快適に関する情報と技術の総合展示会で，職場の安全衛生，環境改善，健康・リフレッシュ，防災・防犯・セキュリティ，交通安全，医療・学校安全などをキーワードに多数の企業や団体が参加しました。当センターは主催者からの要請を受けてブースを出展しました。フェア期間中の3日間の来場者は計15,204名に上りました。



### 安心・安全の科学研究教育センター教職員

(平成21年8月1日現在)

#### センター（社会人教育，研究開発ほか）担当

センター長（教授）	藤江 幸一
准教授	笠井 尚哉
技術専門職員	鈴木 雄二
事務補佐員	長澤 妙子
特任教授	白鳥 正樹
特任教授	関根 和喜
事務補佐員	佐野 華子
客員教授	荒川 敬弘
客員教授	紀平 寛
客員教授	小林 英男
客員教授	竹花 立美
客員教授	田村 昌三
客員准教授	井手 英策
客員准教授	佐野 尊
客員准教授	村上 史朗

#### 【併任教員】

国際社会科学部 教授	藤森 立男
教育人間科学部 教授	鈴木 敏子
教育人間科学部 教授	安藤 孝敏
工学研究院 教授	秋庭 義明
工学研究院 教授	梅澤 修
工学研究院 教授	勝地 弘
工学研究院 特別研究教員	鈴木 市郎
環境情報研究院 教授	大谷 英雄
環境情報研究院 教授	佐土原 聡
環境情報研究院 教授	松田 裕之
環境情報研究院 准教授	小林 剛
環境情報研究院 准教授	熊崎 美枝子
環境情報研究院 准教授	澁谷 忠弘

#### 都市の災害リスクマネジメント担当

特任教員（講師） 古屋 貴司

#### 事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤担当

特任教員（研究教員） 三宅 祐一

#### 石油タンク安全管理学分野担当

特任教員（教授）	吉田 聖一
特任教員（准教授）	橘川 重郎
客員教授	亀井 浅道
客員教授	河野 和間
事務補佐員	吉原 ミツエ

## 新しい教職員の紹介

### 准教授 笠井 尚哉

前職：環境情報研究院 准教授

平成21年4月1日付けで安心・安全の科学研究教育センターに異動して参りました笠井尚哉です。昨年度末で当センターの基軸となっていた教育プロジェクト「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」が終了し，センターの環境が大きく変化する中，前任の小林剛先生のやり方を継続しながら，新たに基軸となる教育研究プロジェクトを創生したいと思っております。今後とも何卒よろしくお申し上げます。

## 編集後記

- ❖ 記念すべき担当1回目のニュース完成！（か）
- ❖ 8月は電気使用安全月間、食品衛生月間です。（す）
- ❖ そろそろ本気で防災グッズの点検が必要かも。（な）

## 安心・安全の科学研究教育センターニュース

第12号 2009年8月10日発行

国立大学法人 横浜国立大学

安心・安全の科学研究教育センター



〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5

TEL: 045-339-3776

FAX: 045-339-4294

URL: <http://www.anshin.ynu.ac.jp>

E-MAIL: [anshin@ynu.ac.jp](mailto:anshin@ynu.ac.jp)